



三井化学

「経営概況」説明会

2013年11月20日
三井化学株式会社
社長 田中 稔一



1. 2013年度上期決算と見通し

2. 中期経営計画の進捗

3. 投資計画と財務状況

上期決算と年度見通し

(単位: 億円)

摘要	12年度		13年度		対前年	
	4-9月決算	年度決算	4-9月決算	年度予想	4-9月	年度
売上高	6,805	14,062	7,316	15,500	511	1,438
営業利益	15	43	110	250	95	207
営業外損益	△ 40	49	△ 3	△ 40	37	△ 89
経常利益	△ 25	92	107	210	132	118
特別損益	△ 90	△ 100	△ 24	△ 70	66	30
税金等調整前 当期純利益	△ 115	△ 8	83	140	198	148
当期純利益	△ 153	△ 81	10	10	163	91
為替レート(円/\$)	79	83	99	99	20	16
国産ナフサ(円/KL)	55,200	57,500	64,700	64,900	9,500	7,400

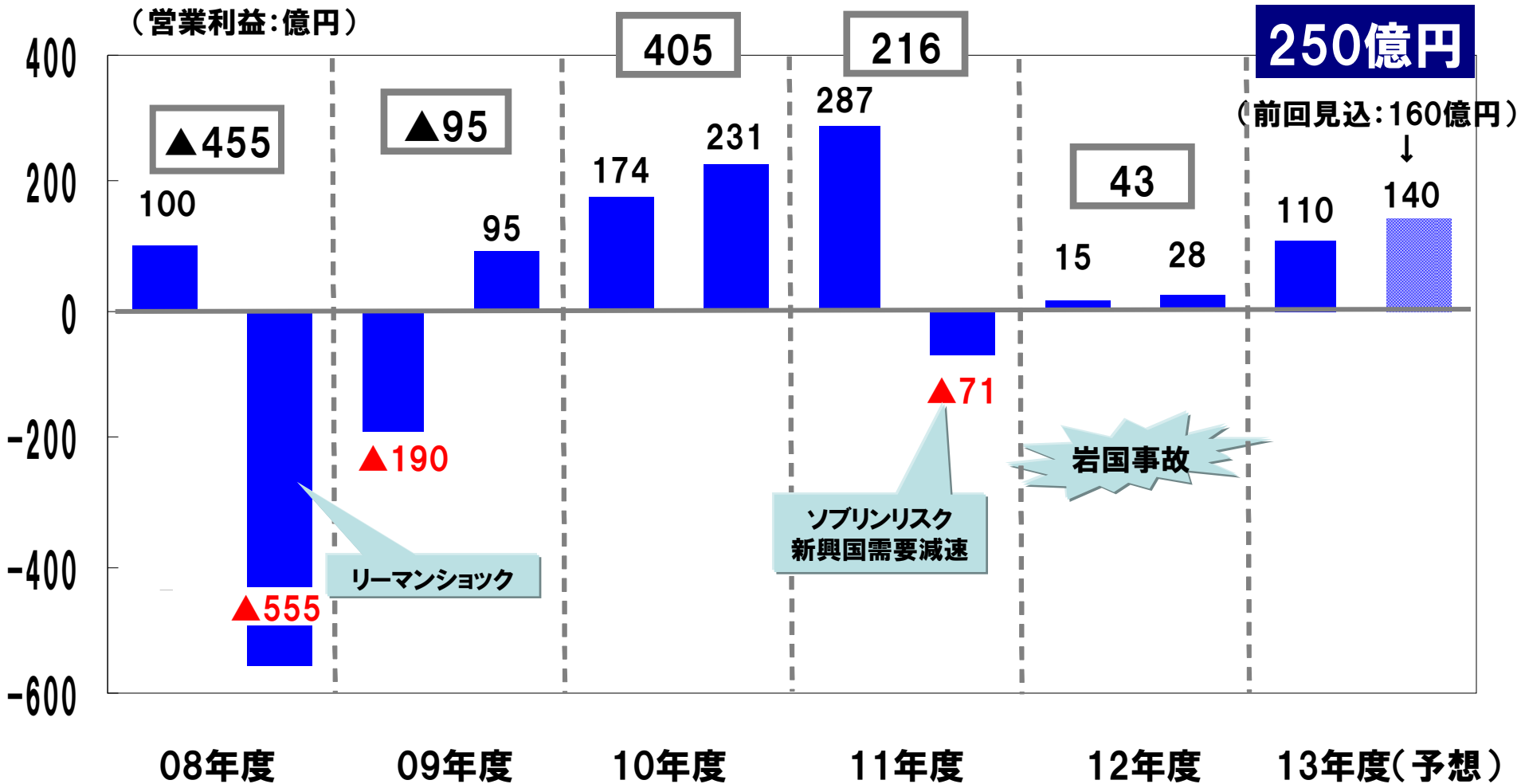
セグメント別営業損益

(単位:億円)

セグメント	12年度		13年度		対前年	
	上期決算	年度決算	上期決算	年度予想	上期	年度
機能化学品	72	124	79	165	7	41
機能樹脂	47	84	74	130	27	46
ウレタン	△18	△26	△41	△20	△23	6
基礎化学品	△70	△189	△80	△160	△10	29
石 化	15	77	98	195	83	118
フィルム・シート	△15	△33	9	△5	24	28
合計 (その他含む)	15	43	110	250	95	207

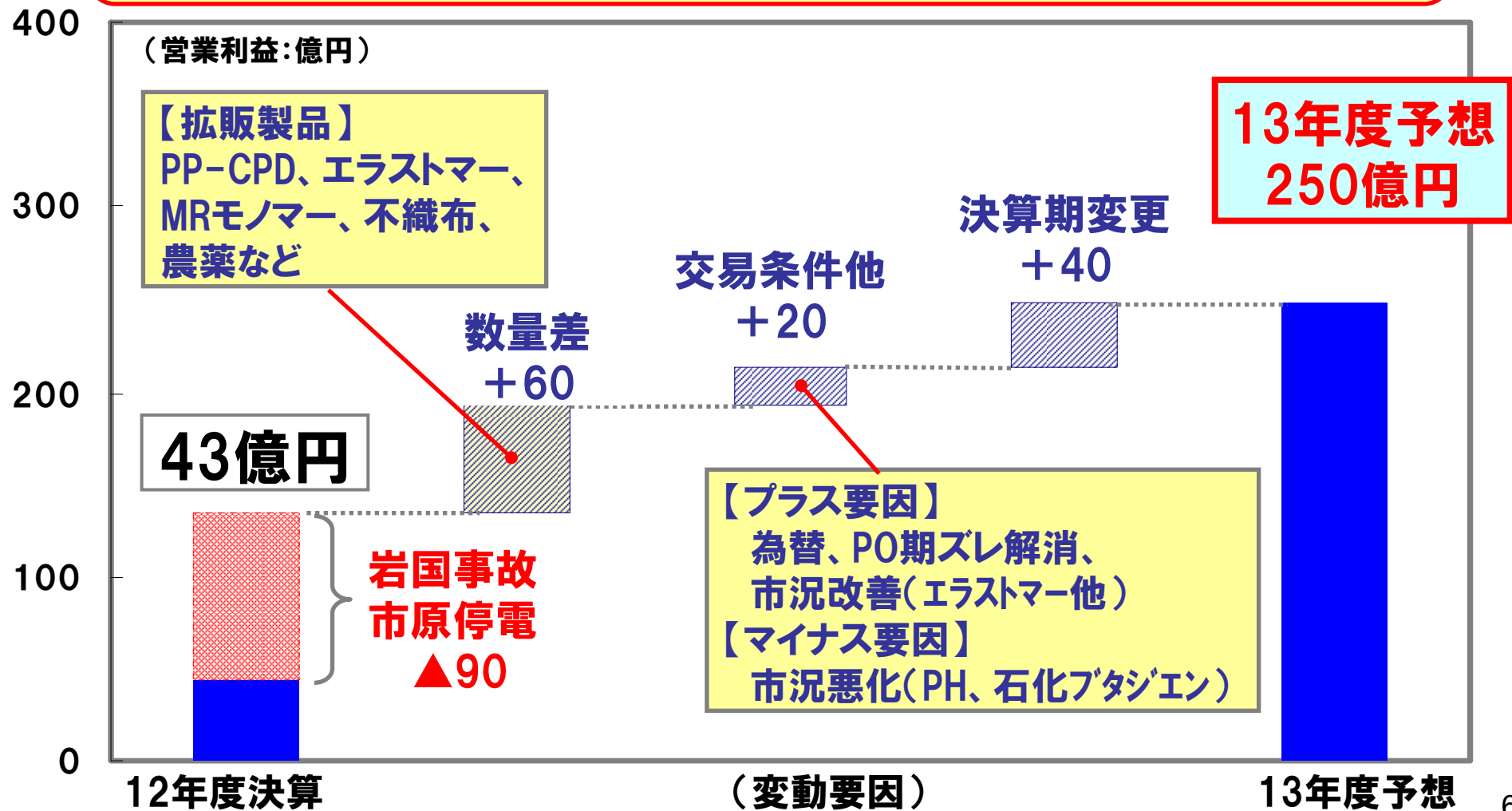
営業損益推移(グラフ)

回復基調も、下期は厳しく見込む



営業損益(対12差異分析)

13年度は事故影響からの回復などで
営業利益250億円以上を見込む



- 
1. 2013年度上期決算と見通し
 2. 中期経営計画の進捗
 3. 投資計画と財務状況

高機能製品群

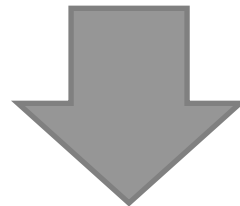
- メガネレンズモノマー、歯科材料、不織布、農薬

高付加価値ポリマー群

- PPコンパウンド、アドマー、エボリュウ、タフマー、EPT等

フェノール・チェーン製品群

- 抜本的構造改革



① 大型市況製品の再構築

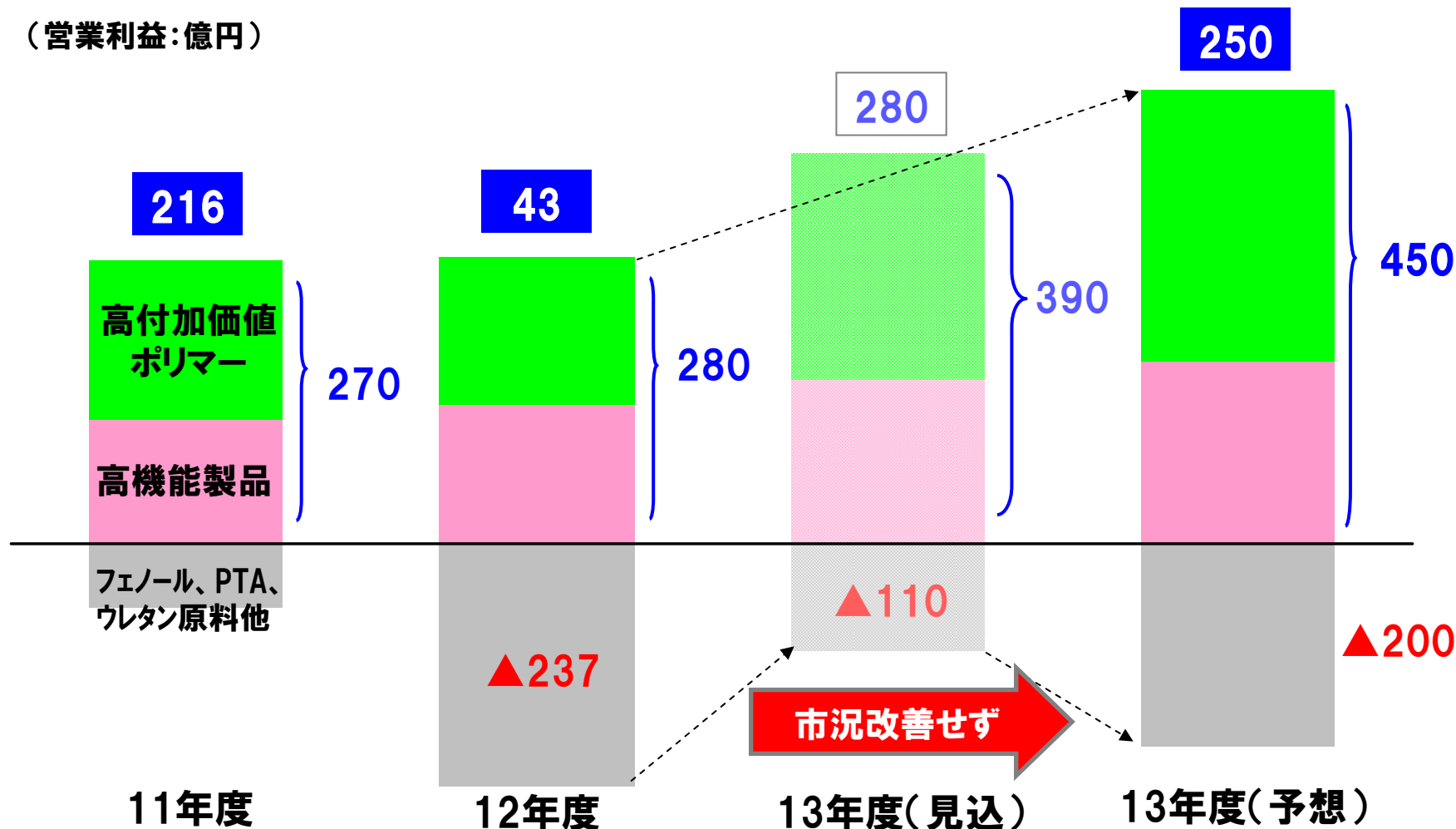
フェノール、PTA、ウレタン原料

② 高機能製品群、高付加価値ポリマー群の更なる拡大

ポートフォリオの現状と課題

- ・高機能製品と高付加価値ポリマーは着実に進捗
- ・フェノール、PTA、ウレタン原料など大型市況製品は市況回復せず

(営業利益:億円)



再構築事業の現状と方向

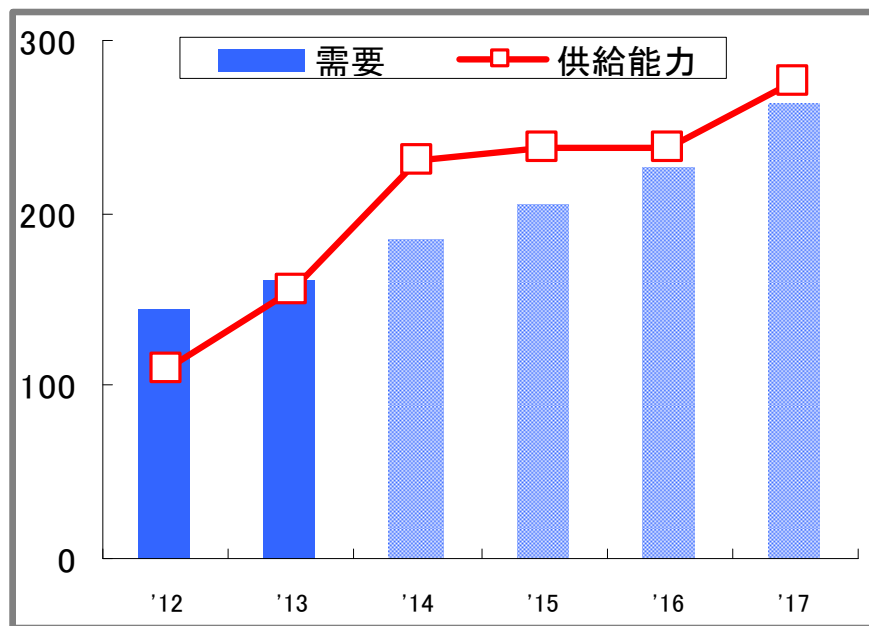
①フェノール・チェーン製品群

②高純度テレフタル酸(PTA)

③ウレタン原料(TDI)

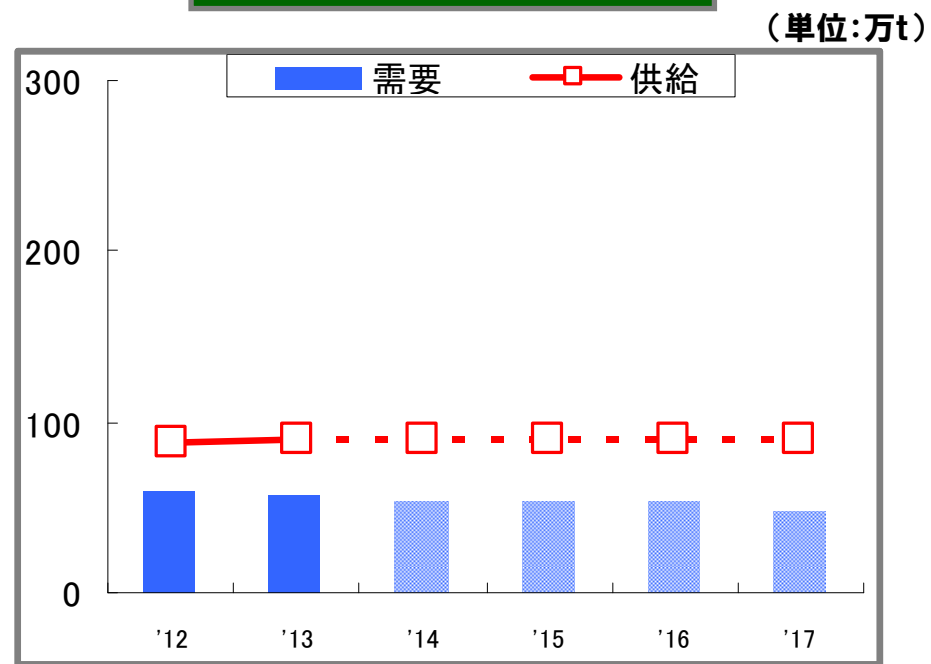
中国新增設により14年以降余剰

中国



17年に需給改善

日本



30万t余剰、高い用役コスト

①フェノール事業 現状と方向

【フェノール事業の強み】

- ・成長するASEAN、中国市場に立地
- ・多様なチェーンとAC余剰対策
- ・有力パートナーとの連携

地産地消化

コストダウン

地域連携

中国

日本

シンガポール

上海
25万t

建設中
※SinopecとのJV

千葉、大阪
64万t

シンガポール
31万t

- ・安価な用役と競争力ある原料確保
- ・強固な販売体制

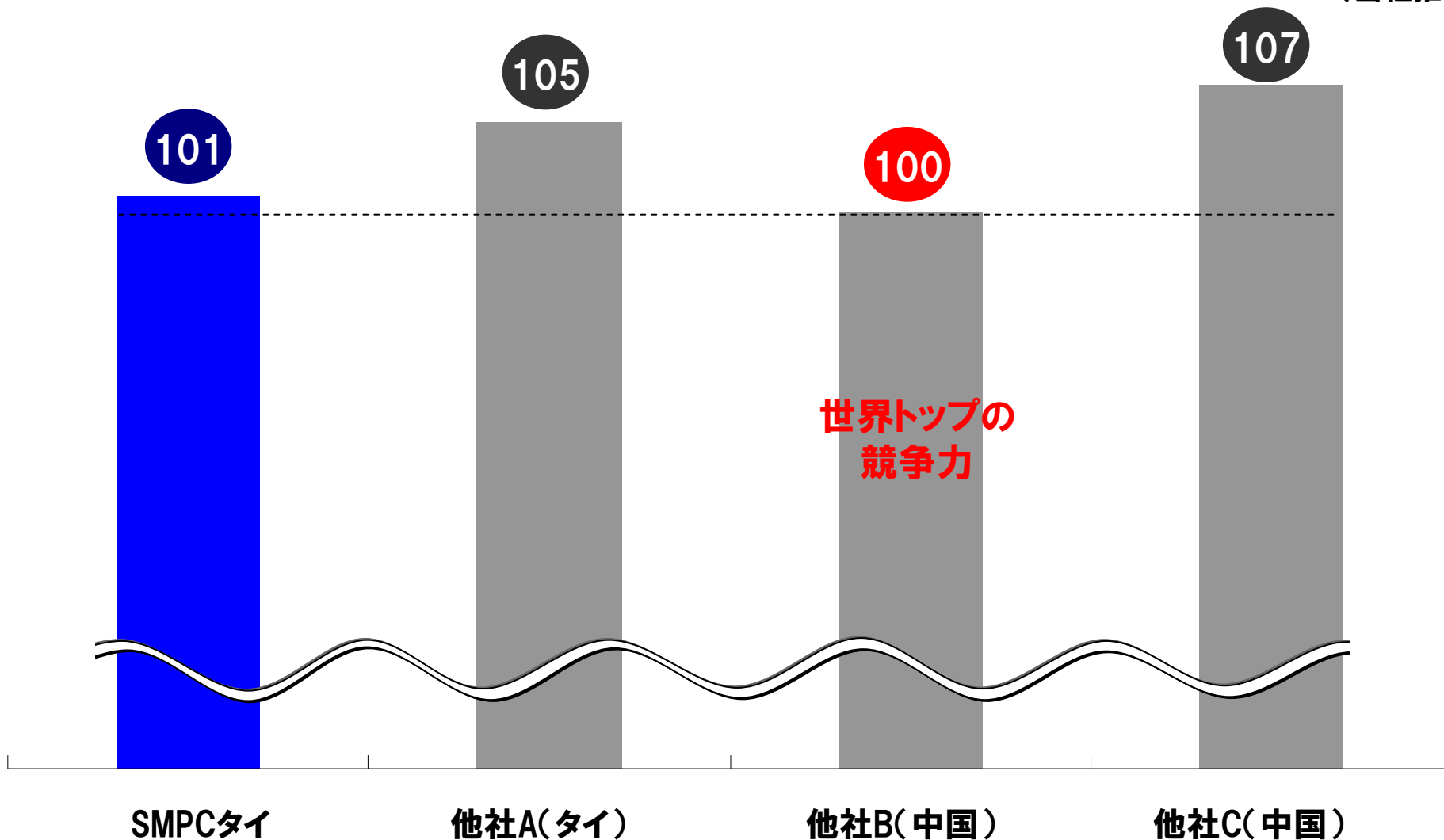
最新の競争力ある
プラント

最適生産体制を
早期に確立

用役コスト対策

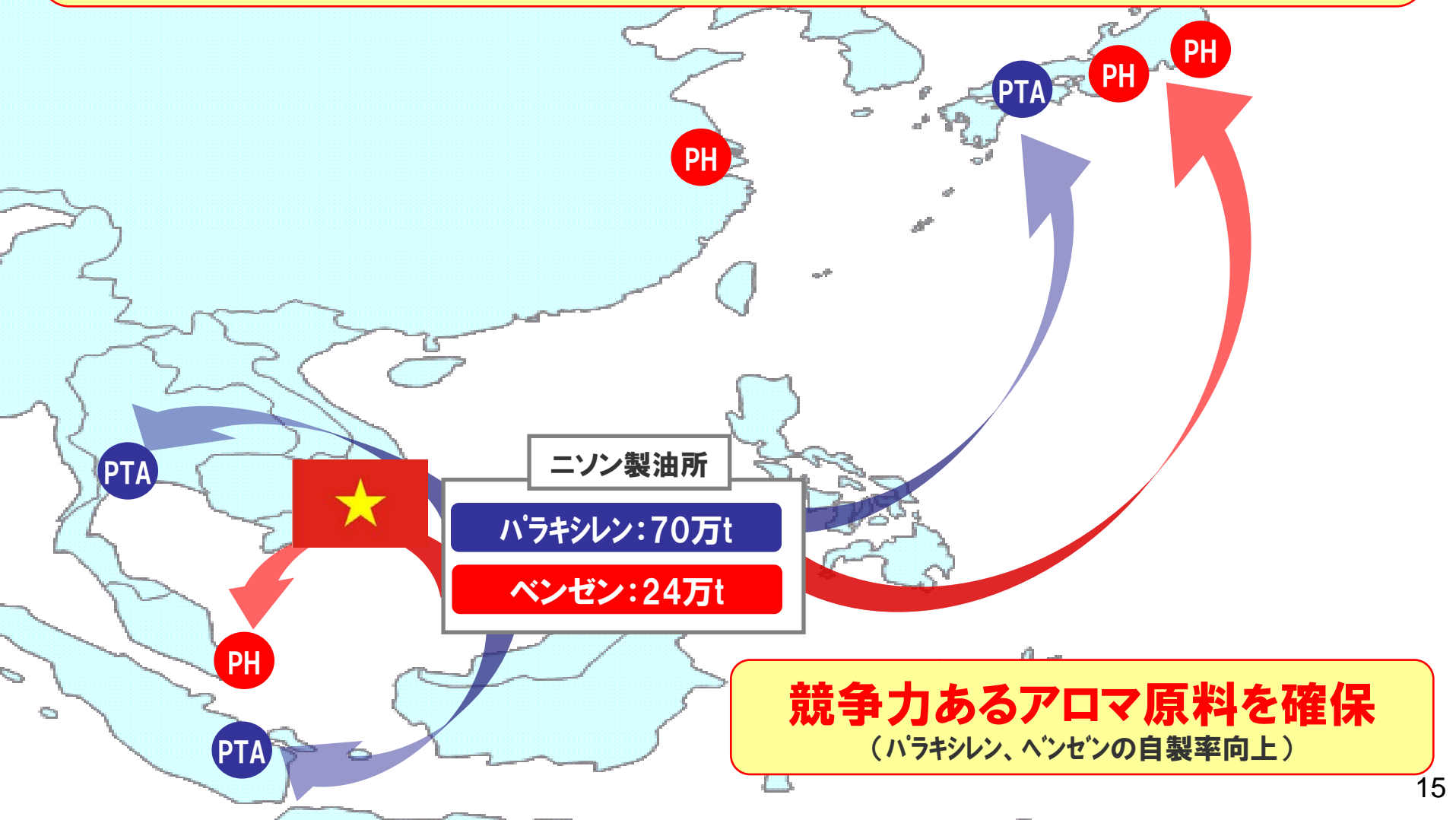
◆タイSMPC:
合理化の進捗により、世界トップクラスの競争力を保持

(当社推定)



・高成長が期待されるベトナムでの高い競争力を持った
石精、石化プロジェクト(2017年営業運転開始予定)

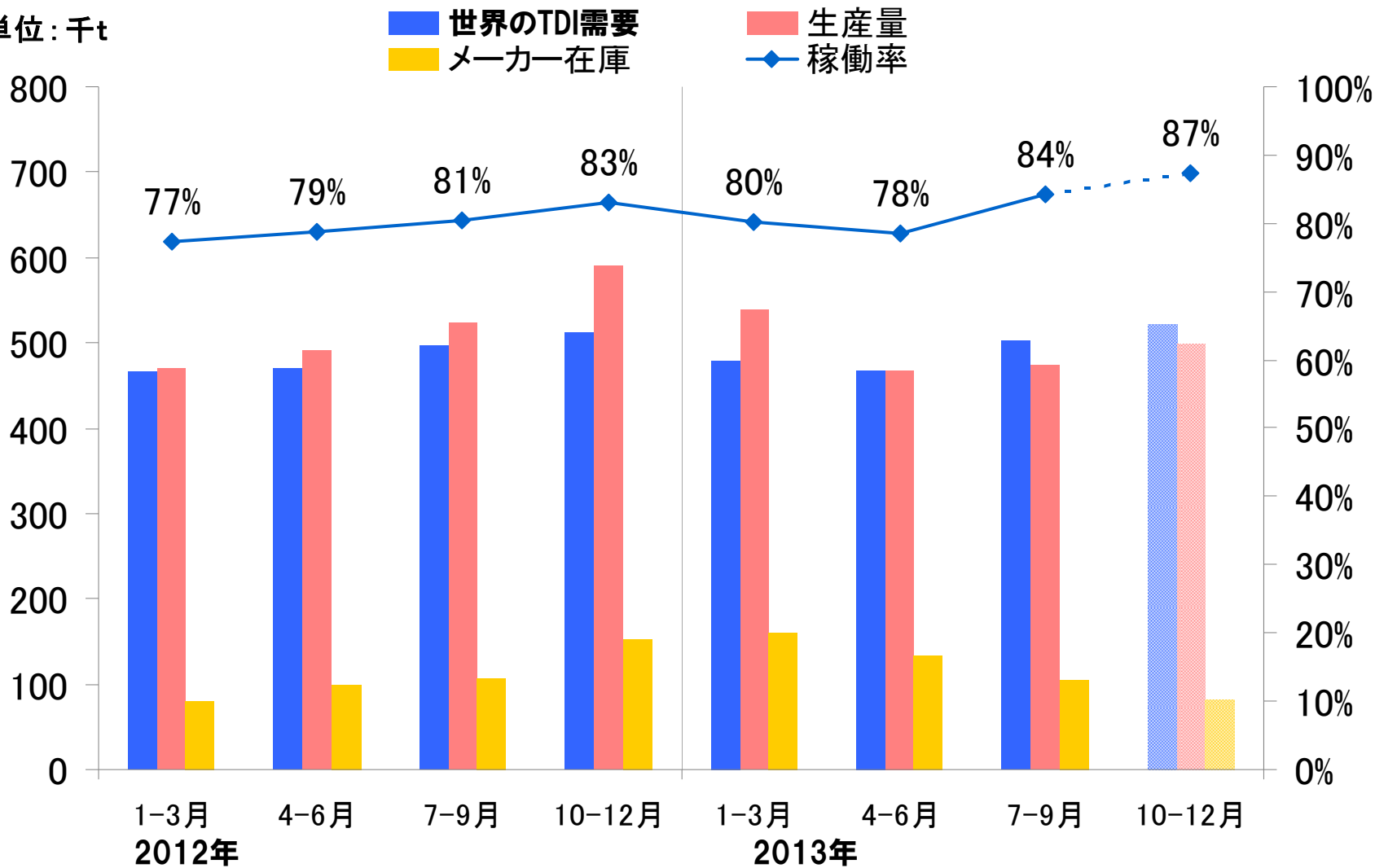
(出光興産:35.1%、クウェート国際石油:35.1%、ペトロベトナム:25.1%、三井化学:4.7%)



競争力あるアロマ原料を確保
(パラキシレン、ベンゼンの自製率向上)

③ウレタン原料(TDI) 需給

単位：千t



**需要の回復と生産調整による在庫減少により、
13下期の需給は改善、市況回復基調に**

③ウレタン原料(TDI) 現状と方向



【方策】

- ①中国輸出依存度の低減(従来の約50%→30%程度まで低減)
- ②徹底的なコスト低減策継続(15年度末目標80億円→100億円)
- ③システムハウスなど川下事業の展開強化

⇒ 更なる対策検討中

～ポートフォリオの変革へ～



高機能製品群

高機能製品群の進捗(1/2)

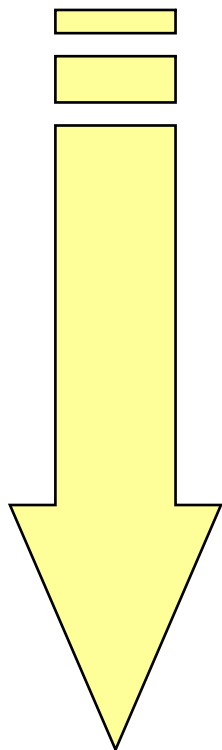
大型M & Aも実施し、高機能製品群は順調に拡大

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度以降
メガネレンズ モノマー	スイス) ACOMON買収			
	世界トップ戦略の強化		シンガポール) SDC完工	
歯科材料			韓国) KOC買収	
	グローバル拠点の確立		ドイツ) Heraeus歯科材買収	
不織布			北米) DENTCA買収	
	アジア3極体制の確立 64千t→94千t		日本) +15千t増強	中国天津) +15千t新設

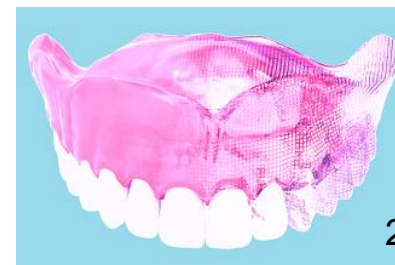
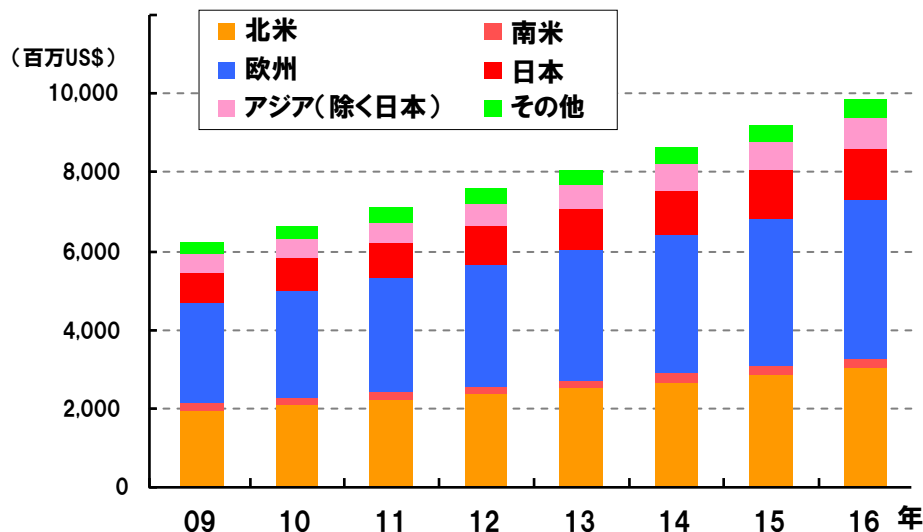
高機能製品群の進捗(2/2)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度以降
農 薬		タイ) Sotusへの資本参加		
				タイ) 製剤研究拠点
		ブラジル) Iharabrasへの資本参加		
				ブラジル) 殺虫剤上市
			インド) 殺虫剤上市	
			北米) 殺菌剤上市	
				中国) 殺虫剤上市
			欧州) 殺菌剤上市	
	グローバル拠点の確立			
	原体の新規登録推進			

世界的高齢化による安定成長(6~7%)、プラスチックへの素材シフト



歯科材料市場規模: 約8,000億円

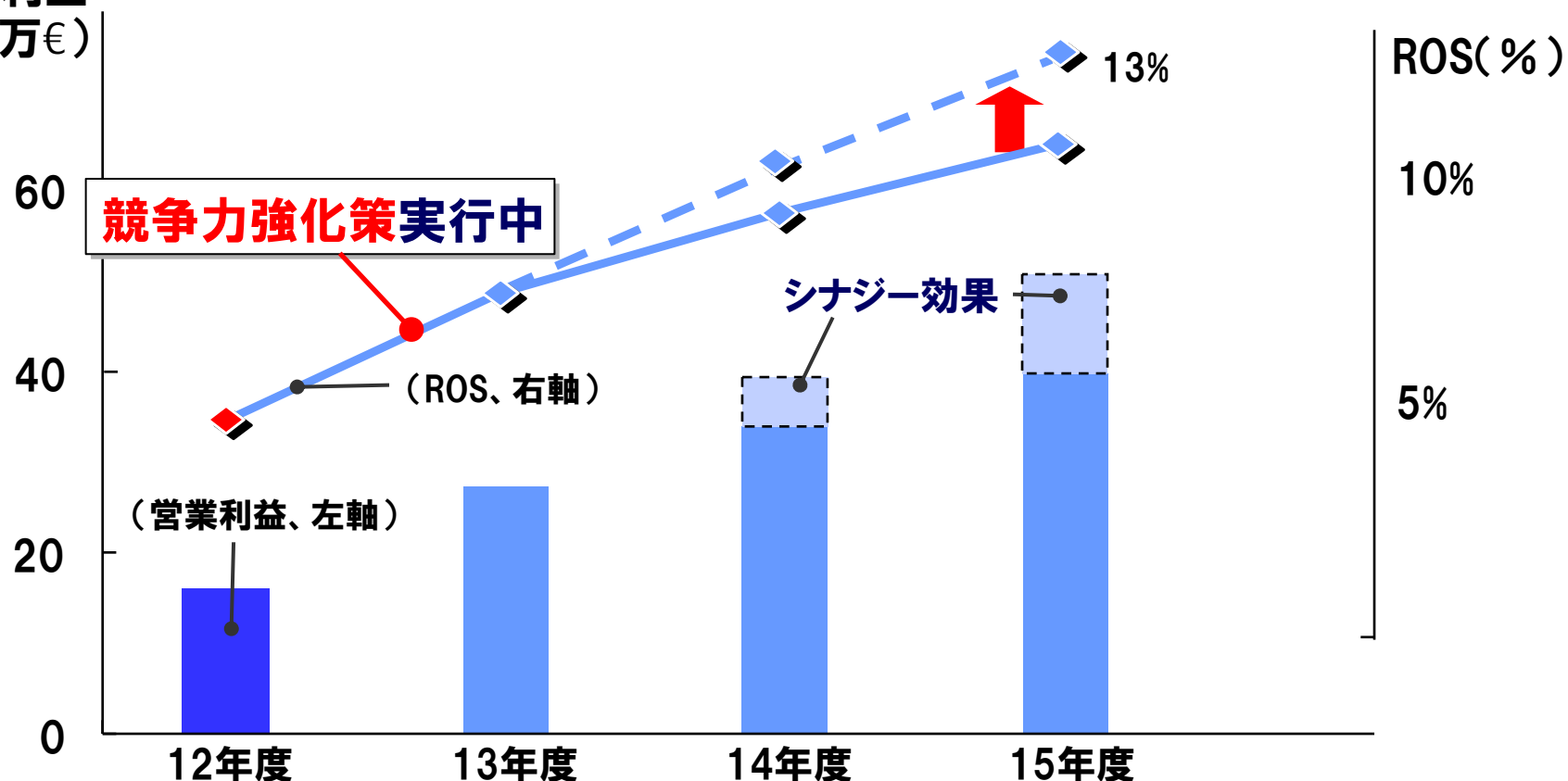


- ① **Heraeus社の歯科材料事業買収**
世界6位、22カ国で事業展開中
- ② **DENTCA社の株式取得**
CAD/CAM (3D印刷等) によるデンチャー(入れ歯)

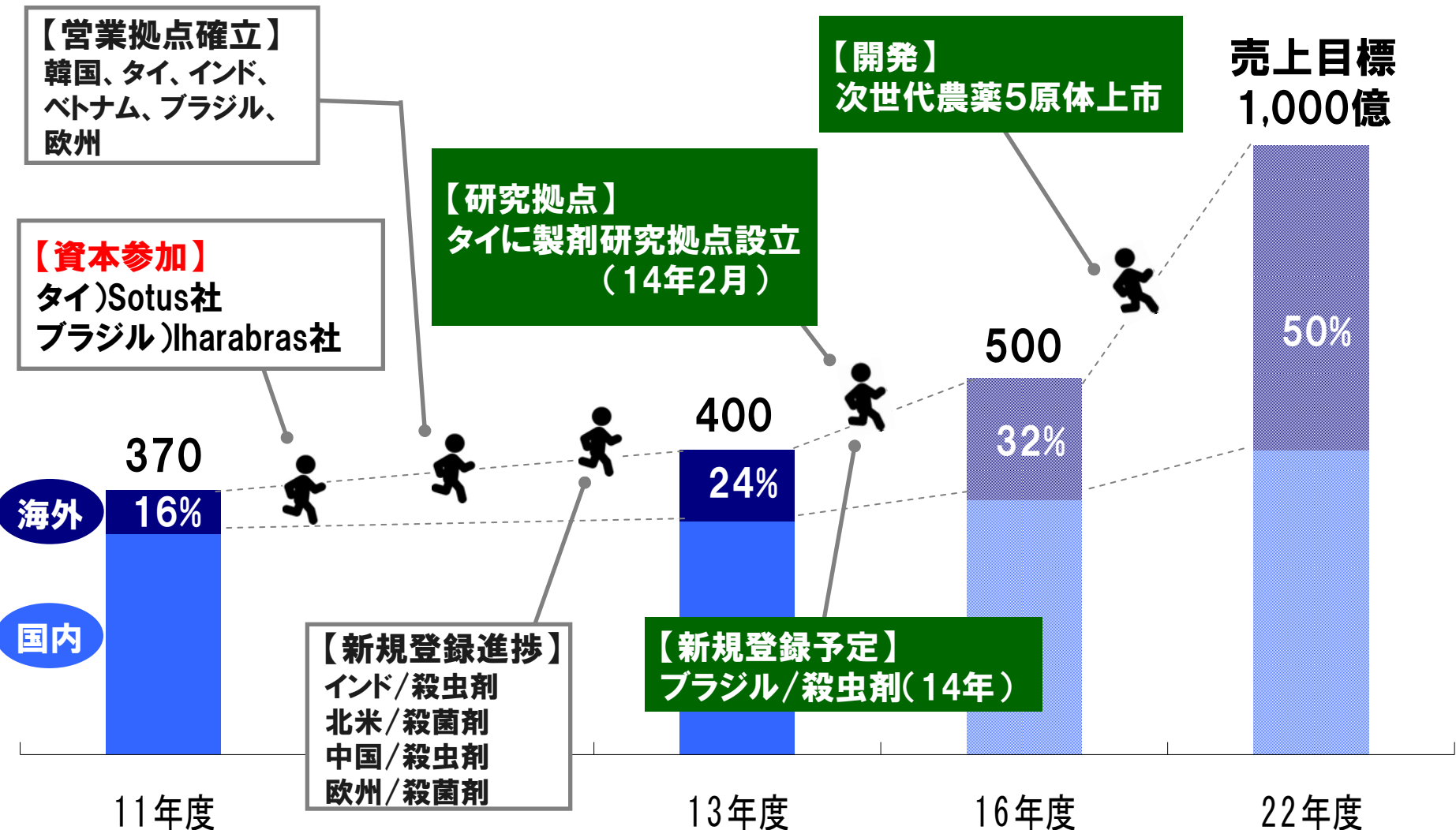
シナジー効果

- ◆グローバルな製造販売による事業拡大
 - ・Heraeus Kulzer製品の日本、アジアでの拡販
 - ・サンメディカル製品のHeraeus Kulzerブランドでの販売
- ◆当社ポリマー技術を活用した新製品の共同開発など

営業利益
(百万€)



海外拠点の確立、新規登録の進捗により、着実に拡大



～ポートフォリオの変革へ～

高付加価値ポリマー

14年以降、大型プロジェクト立ち上がりへ

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度以降
エボリュー	日本) 増強(+50千t)			
	アジアシアの拡大強化 250千t→600千t		シンガポール) 新設(300千t、15年)	
タフマー	世界トップの地位強化 250千t		シンガポール) 高機能品(8千t)	
EPT	アジア需要の確実な取込 95千t→170千t		中国) 新設(75千t)	
バイオ ポリオール			インド) 新設(8千t、15年)	

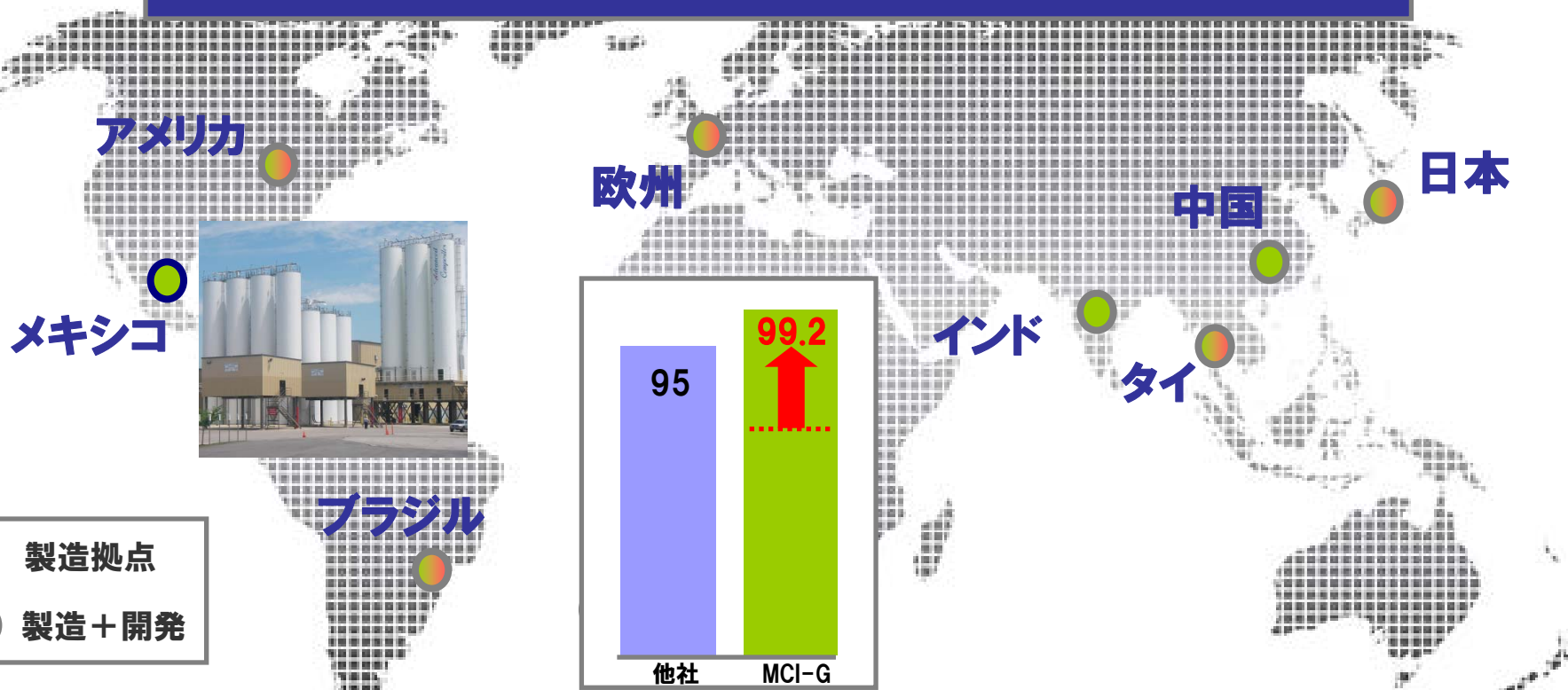
高付加価値ポリマー群の進捗(2/2)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度以降
PPコンパウンド		アメリカ) 増強(+14千t)	+28千t	+14千t
			+14千t	+14千t
		メキシコ) 増強(+13千t)		+25千t
				+13千t
			ブラジル) Produmaster買収(+55千t)	
			タイ) 増強(+18千t)	+15千t
		中国) 増強(+9千t)	+10千t	
アドマー		世界トップの地位強化		中国) 新設

世界8極体制で世界トップ
100万t体制へ

- ・北米、メキシコでの更なる増強で、グローバル供給体制強化
- ・欧州での研究開発拠点の確立検討

顧客のグローバル戦略、ローカル戦略へ貢献



100万t体制(14年度末)で世界トップへ

・インドにバイオポリオール製造JVを設立(2015年1月営業運転開始)
非可食のヒマからバイオポリオールを製造、CO₂削減に貢献



ヒマ



ひまし油



バイオポリオール



ウレタンフォーム



自動車シート

※インドは世界最大のヒマ製造拠点

合併会社の概要

Jayant Agro-Organics (50%)



・世界最大のひまし油メーカー

三井化学 (40%)



・自動車内装用ウレタンフォーム原料の最大手

・世界唯一のバイオポリオール供給メーカー

伊藤製油 (10%)

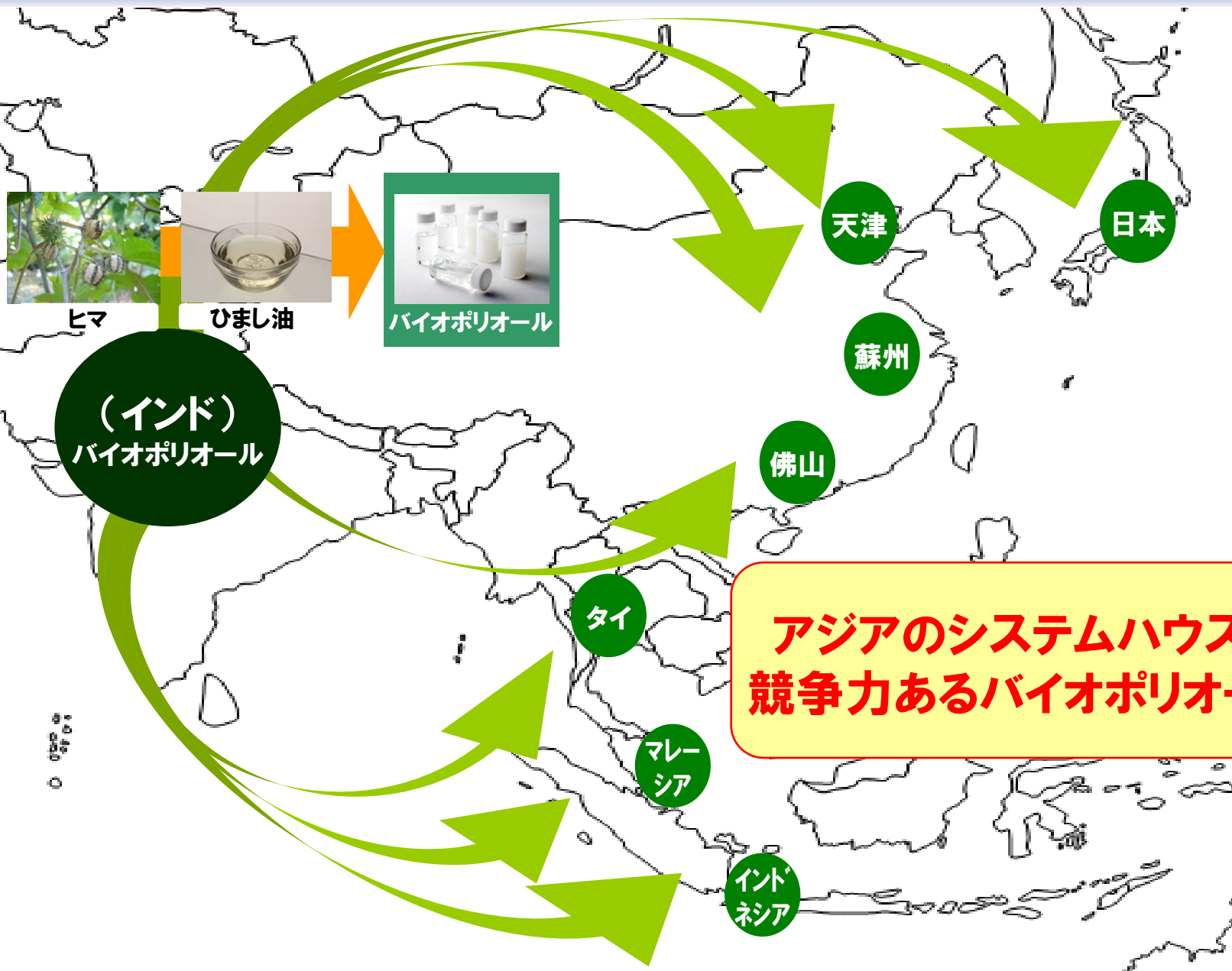


・ひまし油専門メーカー、高い製造技術・品質管理能力




(合併契約調印式)

バイオポリオールのアジア本格展開

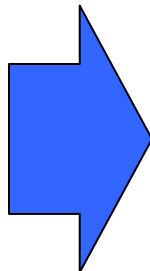
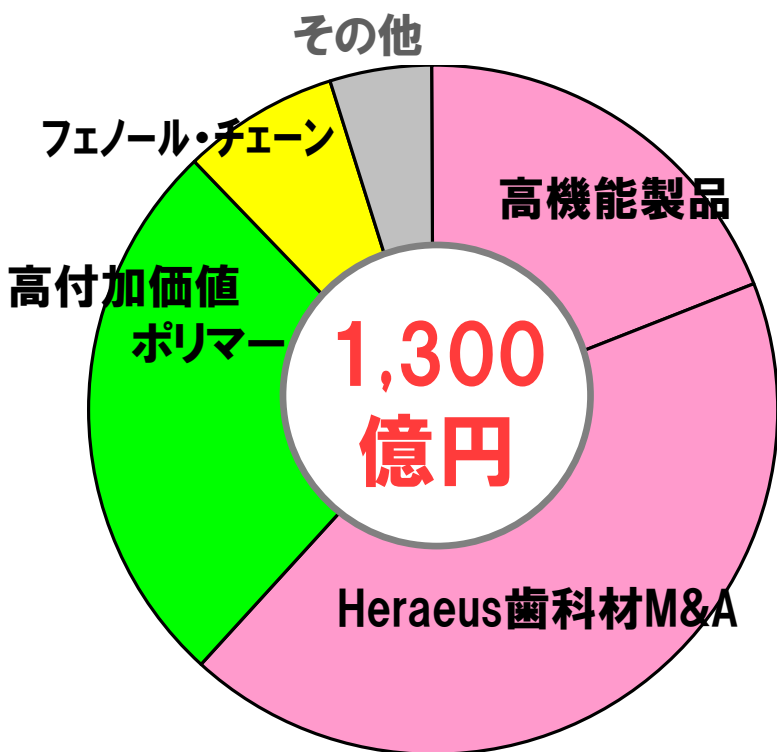


**アジアのシステムハウス7拠点へ
競争力あるバイオポリオールを供給**

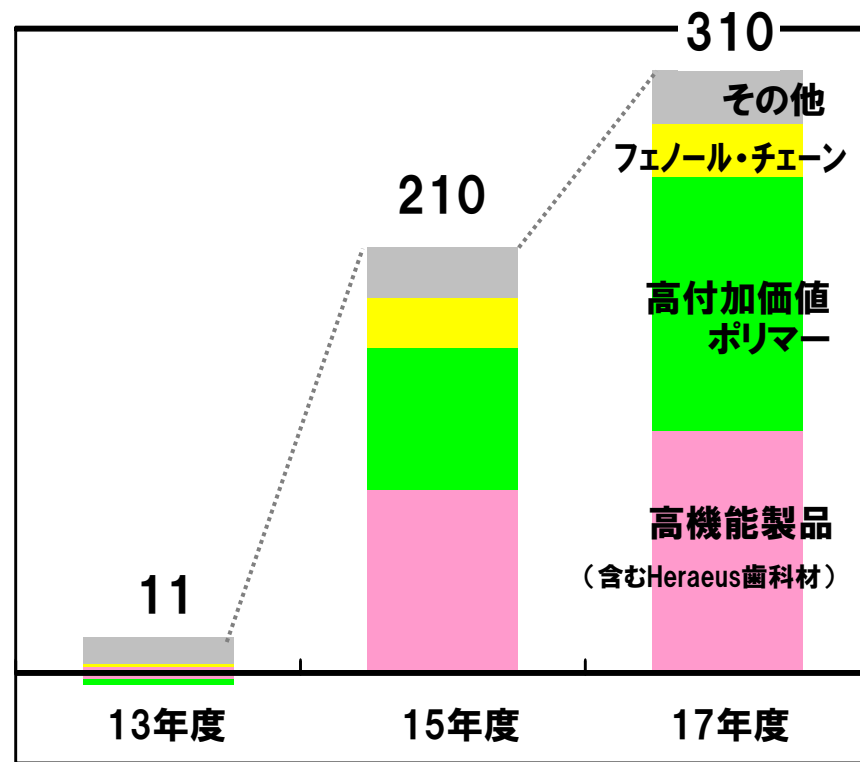
- 
1. 2013年度上期決算と見通し
 2. 中期経営計画の進捗
 3. 投資計画と財務状況

高機能製品と高付加価値ポリマーに**成長投資の9割近くを投入**

11-13年度成長投資



投資効果・増分利益(約50件)

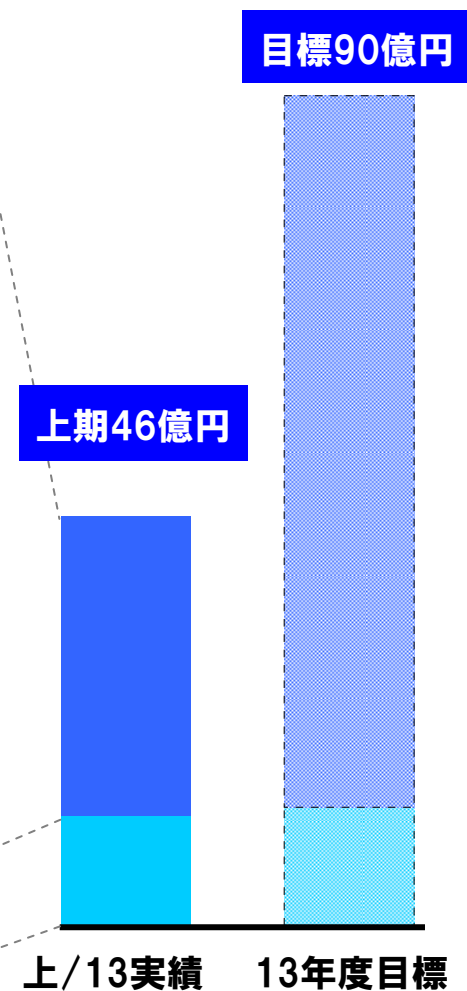


11中計期間中の成長投資の効果は、**2014年度以降に拡大**

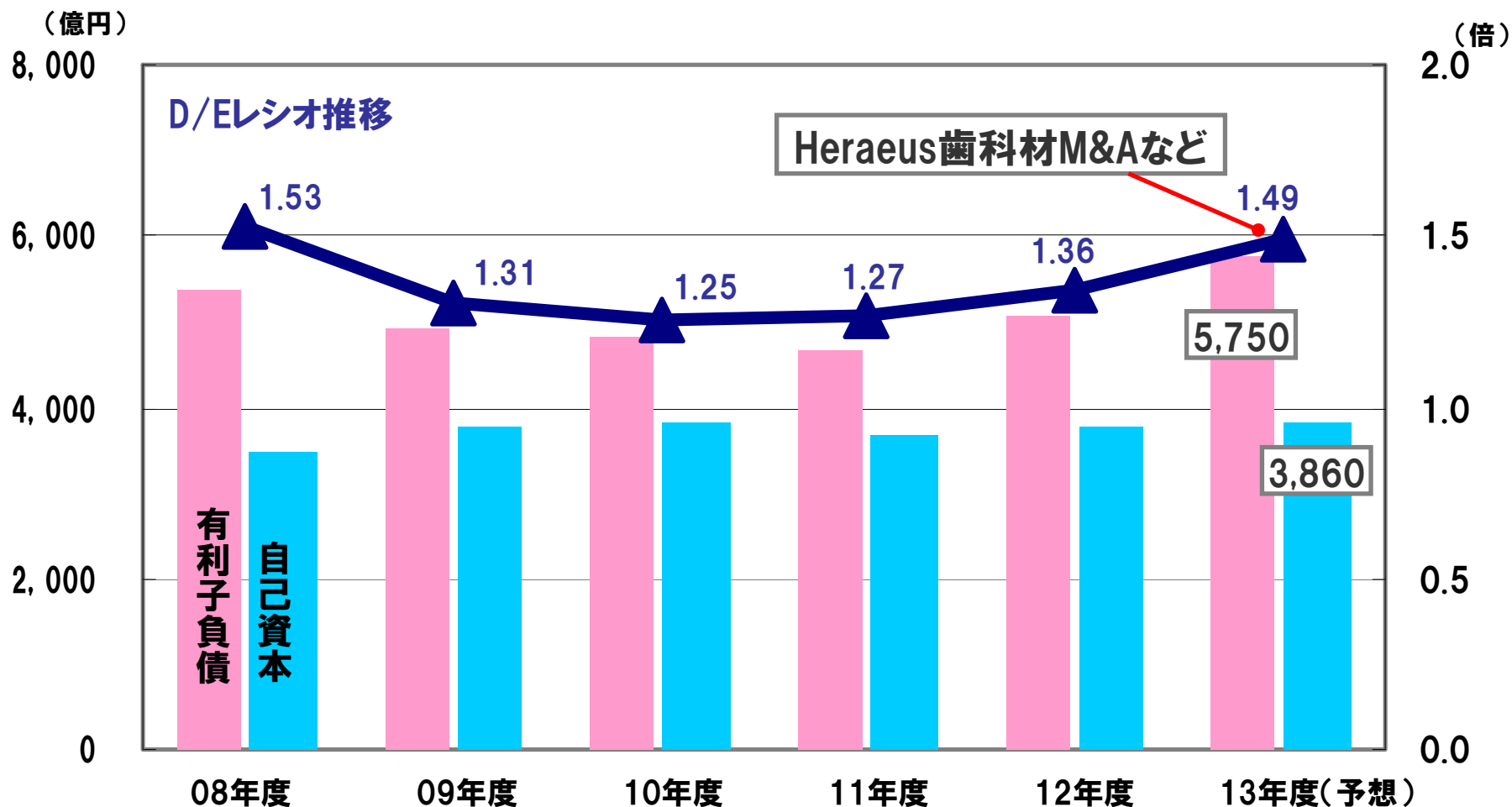
全社コストダウンの進捗

上/13は、46億円のコストダウン進捗

項目	13年度 (計画)	上13 (実績)
ポリオレフィン 汎用樹脂プラントの停止など		
ウレタン コスト構造改革進捗（大牟田など）		
フェノール・PTA他 用役コストダウン 原単位改善 省スチーム化など	77	34
フィルム・シート 生産収率改善、販直費削減など		
その他コストダウン（購買、物流他）	13	12
合計	90	46



財務体質の改善に努める



注)13年度は退職給付債務のオンバランス化による影響は含まず

さいごに

“事業ポートフォリオ変革の仕上げへ”

- ◆ **高機能製品、高付加価値ポリマーは
順調に拡大**
- ◆ **再構築策は今年度中に明確化し、
次期中計で確実に実行**



Challenge

Diversity

One Team

(完)

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。